日本銅学会　第53回講演大会

会長挨拶文

日本伸銅協会並びに日本銅学会会長の吉田でございます。

日本銅学会第53回講演大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年も大変ご多忙の中、休日にもかかわらずわざわざ東京よりお越しいただきました経済産業省非鉄金属課の及川課長様はじめ多数のご参加を賜り、例年通り講演大会を開催できますことを主催者として、深く感謝申し上げる次第であります。

さて、日本の伸銅業の現状をご説明するにあたりまして、背景となる日本の製造業の現状についてご紹介したいと思います。

ご存じの通り、年初からのアベノミクス効果が次第に浸透し、民主党政権時代に比べますとムードのみならず統計数値の上でも日本経済は明るさを取り戻し、企業活動も活発になってきております。輸出競争力や企業業績も除々に回復傾向を示しつつあります。

さて、足許の日本の伸銅業ですが、昨年度は76万トンに落ち込んだ生産量が今年は約80万トンに戻るものと思われます。先ほど申し上げた、円安環境による日本の製造業の全般的な対外競争力の回復が、伸銅品の生産にも寄与するものと考えております。特に自動車産業の堅調さは、幅広い日本経済の回復を力強く牽引するものと期待致しております。

然しながら、伸銅業の生産量はリーマンショック前には年産100万トンの水準を維持していたことを考えますと、マクロ的には80万トンでは大変に厳しい環境にあることには変わりません。日本のユーザー業界の海外への移転、パソコンや携帯電話などに使われる電子部品の機能の変化や小型化による素材の軽薄短小化、中国等の近隣の伸銅業の水準の向上、銅価高による他素材との競合、等の要因が重なり、国内伸銅需要の縮小が続いております。

こうしたことから、日本伸銅協会では、昨年度から将来の伸銅品需要の回復に向け、新規需要や新規用途の開拓に繋がる調査や伸銅技術の開発に向けた活動をスタートさせたところでございます。

日本が先端を行くHV・EV等の次世代自動車、風力・太陽光など

の再生エネルギー分野、スマホ・タブレットなどの情報端末などの分野において、ハイエンドの高機能材を中心とした需要の開拓、また伸長している新興国の需要にも関心を払ってまいります。銅の殺菌性能に着目した予防医療分野の需要開拓もこうした観点から積極的に進めてまいりたいと存じます。

このような新規の分野での需要の開拓や創出につきましては、銅や非鉄金属についての幅広く深いご見識をお持ちの学会の研究機関の皆様のご支援が必要なことは言うまでもございません。三人寄れば「文殊の知恵」と申します。私は産学官の連携に強く期待しています。正直云って、伸銅業というと、当社の名前も同様ですが、「伝統はあるが旧い体質の業界」とのイメージがあります。新しく勃興する産業との接点を飛躍的に高め、銅の価値・機能を認めていただき、少しでも多く銅を使っていただきたいと切望しています。

そうした観点から、本日から開催しています日本銅学会講演大会は、全国の銅を研究されている研究機関や企業の皆様方が集われる意義ある討議の機会と思います。このゆるぎない一体活動の継続こそが、我が国の銅産業の強さを支える大きな原動力の1つであ

ると確信しております。

最後になりましたが、ご多忙の中、特別講演をお引き受けいただきました4人の講師の皆様、並びに貴重な研究発表をしていただく発表者の皆様に対しまして、心より御礼申し上げます。そして、本日、栄えある論文賞を受賞されます皆様には、心よりお祝いを申し上げます。

また、今回の講演大会の開催に当たり、大会の準備・運営にご尽力を頂きました関西大学の池田先生をはじめ大会実行委員の皆様方に感謝申し上げます。

この日本銅学会が今後も大いに発展致しますことを祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。